

ボランティアをして学んだこと

私は文京国際交流フェスタで初めてボランティアをしました。当日初めて会う人とボランティアをする事に不安が無いわけではありませんでした。しかし、周りのボランティア参加者の方々が気を遣って下さって、私自身ボランティア活動に慣れ親しむ事が出来ました。日韓アジア基金のブース展示イベント自体も無事終了し、ボランティアに参加する意義を感じる事が出来ました。

先に書きました通り、私は今回初めてボランティア活動に参加しました。このボランティア以前に私は、ボランティアに参加しようとは思えませんでした。一つには、今までボランティアに参加するほど時間に余裕が持てなかったのもありますが、最も大きな要因はボランティアが身近なものだと感じられなかったことでした。なぜなら私にとって、ボランティアはハードルが高いものであったからです。例えば、参加募集されているボランティアには、長期にわたるもの、あまりに家から遠い所でのものも多くあります。また、特別な意志なしには出来ないものもあります。そのような自分にとっての制約が課されれば課されるほど、ボランティアに参加しようとする意欲はそれがれ、一步を踏み出せないでいました。

けれども、私が先日、日韓アジア基金のブーススタッフとしてボランティア活動に足を踏み入れる事が出来たのは、初めてボランティアをする私にとって良い意味で「気軽」な環境下でのボランティアだったからだと思います。高校生から退職をされた方まで様々な年齢層の方々が、募金活動をしたり、文京国際交流フェスタを訪れた方々に日韓アジア基金の活動紹介をしたりして、ボランティア活動を楽しんでいました。加えて和気藹々とした雰囲気の中で、ボランティアに参加した方々と交流する事により、ボランティアに対する理解が深まりました。



開始時刻に追われながらの懸命にブースの飾りつけです。

イベント終了後、アジア文化会館で行われたブリーフィングで、お互いの労をねぎらうと共に次の質問がなされました。

「ボランティアを今後やってみたいと思った人はいますか？」

質問がなされたと同時に「勿論！」という意思表示に、ボランティア参加者全員が手を挙げていたのが印象的でした。私自身にとっても、日韓アジア基金でのボランティアは、これからもボランティア活動を持続していきたいと思える契機となったのではないかと思います。